



松梁情史秋七草

卷四



^13
3917
4



泉岸 思之中村貞纂述
博愛奥田頼閣止
頭書 小學作文教授書 全五冊

此書ハ先生曾テ學校巡回ノ際各校生徒ノ進歩惟リ作文ノ諸科ニ
後ル、ヲ憂ヘ其教授ノ順序ト方法トヲ講究シ其發明スルヲ實地
ニ試ミ其效アル俗文要語活用問答令正誤文俗文復讐法等若ク
初卷ノ首ニ掲ゲ次ニ作文教授方ヲ説キ日用短歌文祝賀帳帛文電信文公
次卷ハ首ニ俗語彙ヲ編ス○第三卷首ニ作文要字彙ヲ編ス○和辭ヲ掲
用ノ願ハ文諸証文ヲ編ス○第四卷首ニ作文要字彙ヲ編ス○和辭ヲ掲
次ニ方今流行ノ雅文ニ俗語ヲ種々配シ八廣百餘章ヲ編ス○第四卷五ノ
ヲ成ス至テ短キ未曾有ノ極配シ八廣百餘章ヲ編ス○第四卷五ノ
而卷ハ首ニ漢文要字彙ヲ編ス○第五卷首ニ作文要字彙ヲ編ス○和辭ヲ掲
紀事論説贊銘題跋傳序祝文祭文等ノ作例數百ヲ編シ其文ノ種
類ニ從テ其趣意ト作方ヲ説キ他人ノ文ヲ評スル語數十ヲ掲グ○
但ニ每卷ニ作例及ビ類語ノ假名ヲ添テ訓解ヲ施シ教授且獨字ニ
テ便スル書ナリ其親切ナルハ筆紙盡シ難シ四方君子覽實試以
テ其言ノ誦ヒバルヲ知り玉ヘ 大阪東宝寺町甲目 前川源七郎敬白

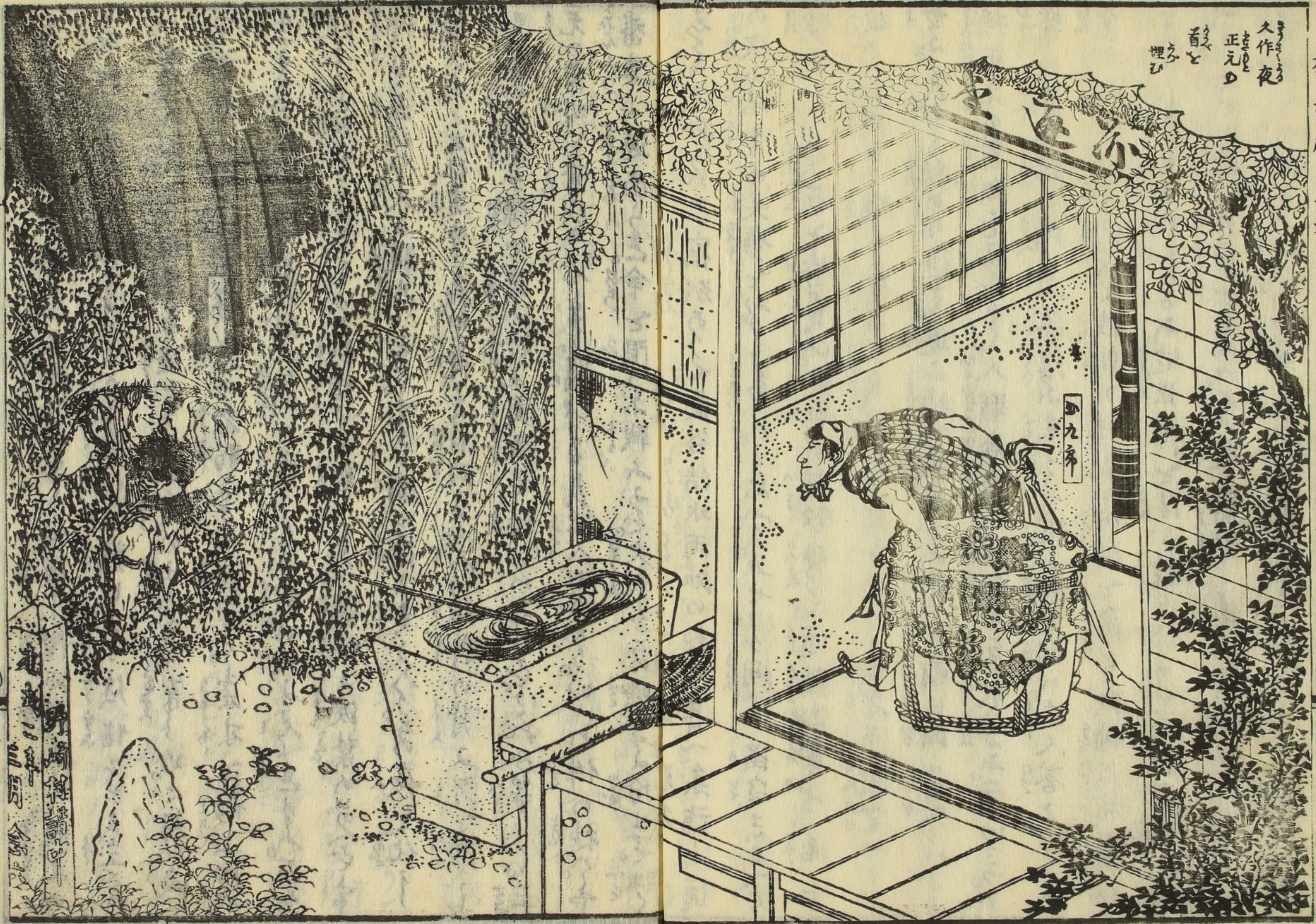
松蔭情史秋七草卷之四

東都 曲亭馬琴編次

○第七 薺小呼ぶ 志の老革

山里のさうあさ戸乃志のめみ。あうれもられ一朝顔の花うもる春
果敢る兒も。只人の世は榮枯なり。さても楠濳代の忠臣津積産六有
義ハいぬる永徳元年秋のち。主君正元の密諒を稟く。罪多罪小
追放され僅々四寸あり。正元の嫡男操丸小俱して肥後國へ赴き。
名を文作と更めく。菊地武政が桑地より身を潜め。農業漁樵を生
活とせし。十二箇年を過せし。河内國より南朝の元中八年。和田
正武病死し。うやえし。西海の宮方より英気を失ひく。武政が
武威遂に振つど加之。今茲北朝の明德三年。南朝を元。十釵破の城

久作夜
正元
首七
埋



引由出さく舊のどく土を覆んと志さくしが。忽地又奸計を生て。
件の首級をもちて。観音堂の縁の下へ投へし。魔除の爲や。
あんなどん。棺の上へ載せり。刀をもちて。遠く蓋をうち開け。
死人の首をうけ取り。又と鞋を納め。首を藪蔭に埋め。柄杓の
柄をもち。おのが股を突傷り。又仰さまふ倒れ。正直坊がぬきそ
うり。死に黙言。嚮ふ。生九郎は魔冷され。隣に里人か家又到
て。計校を必び起し。如此くのりある。今宵も御堂は通夜
し。と。憑きまきえ。而三人を誘ひ。ぬりまう。さんは生
九郎の血を塗き。縁類は倒れ。棺をうち開け。さるが。潮九郎
か屍は首へさる。さるもいさ。と。さるも。衆皆大に驚き呆れ。
まづ生九郎が面へ水を吹く。薬劑を口に含み。声高き。
呼び活ま。生九郎はややくふ。これより。さるが。改を擡
正直坊ホをえり。太やうる息を吻。阿近く。世は盗賊由
夥あれど。死する人の首と盗る。いさる。物教寄あり。これの
盗賊を生拘んと。却一挙は打ふ。され。刺太股を志さく。イノ
突し。歌さ。ゆめ。件の賊へ。さる。棺をうち開き。屍の首を
刺す。藪の底に埋め。忽地又脱き。夢のやうな。さる。
世の怪有る。奴もあつ。と。虚言実言。うち雑る。物くれ。正
直坊ホを。果え。その盗賊へ。いさる。打撈る。怒まる。の。あ
め。と。問ふ。生九郎。答く。楚と。怒れ。さる。郷る。え。作
似。打く。さる。叶。篋に。證據と。さる。の。さる。や。さる。と。
いつさ。出。正直坊。里人と。さる。つ。さる。ぬき。驚れ。



文松途
又の標後
代らんと
猪入

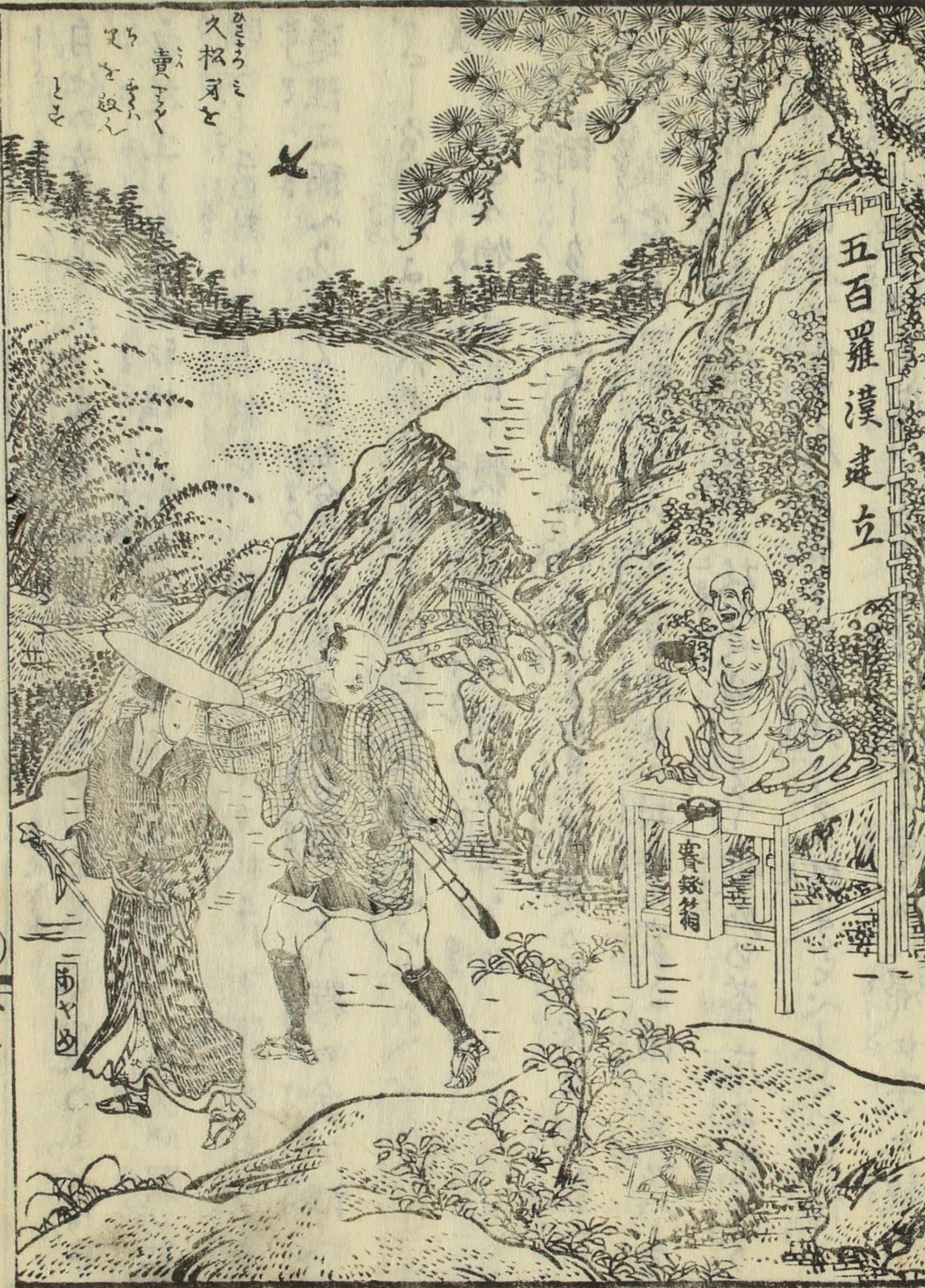
うゝる。護り囊の祝世音。親の像見を忘る。なぐらふ。世
は水鳥の志紀は名高き支門天野崎の郷なる親世音朝な夕な禱
る。終に実の二親を名告むらじ。めと河内は勇れ楠の稚枝なり。
と告ぐる。くさる。むもいひ遺ると言つ。紫をる。罪人の名を。老樹の
根より春の餘波の花曇晴やぬ身を啣つて。あでそいつ。哽咽
久松いう。噉哭。弔理ある子と情あり。艱の思高は。幼少の叙と
えろ。叙しく。あゆぬ父母索よとの老ての愚癡疑ひて。うが牙を
代ら。多人ねと。勅解つ口説つ。貞縁子と煩惱の羈愛惜の絆
み犯入意の駒よ。いへぬもほし。せう。沈み。死を究め。
久作と声を激し。ひる。けり。けり。口説く。親は罪を中さ。といと
愚る。と。叫ぶ。果て。兵士木をえ。う。人。と會釈する。健気
る。親孝行する。子。けり。は。ま。いと。猛き。兵士木。袖濡。涙。河内
あぐ。委む。春の野崎の村。雨。四鳥の別。五。六町。後。跟子。う。ち
髪。く。よく。親。う。う。あひ。や。う。哀。う。

○
第八

女郎花を稱ふふ
草を

誰か折る。嵯峨野の原の思ひ艸。これるれり。バ花とさうとも。舊の根を
 そもそとぬ子の久後をかうひす。親の歎え故ありとも。曉移る久松と。
 只その罪を代らんと。願言も絶く稱む。哀慕の涙をせり。兵士ホが教
 ふやうして。村長陀平が家へ到来く。父の恨を勸解。或は出九郎を
 寛るふ。人の性へ。おのく善うとさるなり。陀平ハ勿論。悪棍の野草
 植も久松が孝行は自と羞え。彼が諸随は三人奔り。縣守の宿
 所へ赴き久作ハ命をせよふ。此度洛あり。日岡は梟と見し。楠正元が

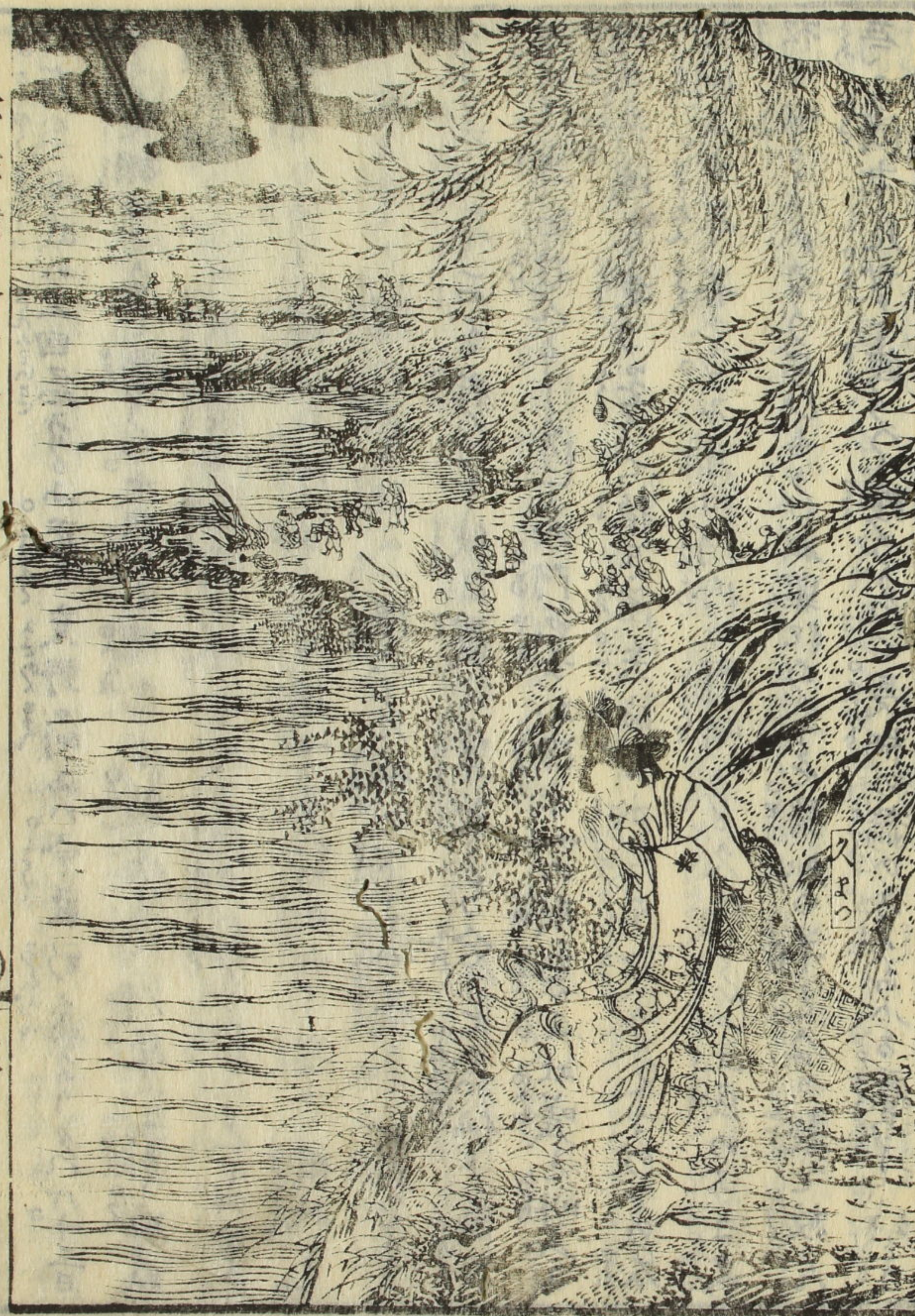
くびと奪ひ去る癖者あり。倘久作也。それらの支黨やあんとく
許さん。久松ハ忽ち又そを失ひく。只あんとく。神仏の利益を
於人の外あり。と深念。朝又夕。野崎の親世音へ系詣。夜々通
宵。御堂へ籠りて。又か縋縄を釋し。人々と祈ぬ。さる夜。龍岡川
の水ゆらふ。おけと。陀平ハ兒子。勘九郎ハ首を落とす。軀を石根
寺へ送葬。さる今般の椿。より。出九郎さる。さる。子ハ肢體
不具の鬼とさる。ぬべんとく。只音ハ賞嘆し。さる。出九郎ハ浅五貫
と。新し布子。つと。さる。野草。模と。さる。課せ。と。密に飲。び
さる。の。外。は。襟。と。垢。る。布子。を。被。く。絶。え。酒。を。喫。く。残。る。浅。を
聞。く。さる。十。貫。う。せ。さる。針。被。し。人。を。寛。く。お。れ。を。利。る。浅。
ま。れ。ハ。亦。主。此。ハ。久。松。と。さる。さる。の。お。れ。さる。ハ。大。は。後。悔。し。
更。ハ。一。層。の。惡。念。を。発。し。く。さる。と。尋。思。さる。ハ。彼。久。松。ハ。洛。も。稀。
さる。さ。義。少。年。さる。時。勢。狂。ハ。男。さる。さる。浪。速。律。坂。さる。追。
男。さる。と。街。ハ。生。活。と。さる。の。お。れ。さる。ハ。大。和。遊。歴。と。さる。寺。川。
小。雨。三。日。逗。留。と。さる。さる。浪。華。の。旅。客。と。彼。街。艶。郎。の。駅。方。さる。
い。つ。み。ゆ。久。松。を。被。く。彼。親。方。ハ。商。錢。と。親。の。金。を。さる。さる。
さる。久。松。と。年。み。す。と。恰。利。ハ。庸。常。み。と。謀。と。さる。と。さる。と。
肚。裏。さる。問。答。ハ。結。と。さる。と。さる。と。さる。日。乃。黃。昏。ハ。親。音。堂。
の。内。と。と。排。徊。ハ。堂。守。默。言。ハ。廁。へ。登。る。間。を。窺。ひ。奥。さる。瀧。び。
入。と。さる。の。厨。子。の。背。ハ。牙。を。屈。め。小。夜。の。深。さ。を。待。と。さる。の。久。
松。ハ。親。音。堂。ハ。通。夜。さる。既。ハ。七。日。ハ。及。び。さる。正。直。坊。ハ。孝。子。の。苦。を。
憐。れ。と。さる。物。食。さる。湯。ハ。何。と。さる。と。問。慰。さる。久。松。ハ。火。食。を。以。て



自他の幸るべけれど、年々の軍勢が分たて、企及一がたのこころを
 りの地主よりて、船橋の料を寄進せむ。その功よりて、又の罪を
 購べし。その外、あつたに謀るゝといふ。久松をさす。いづれに
 道理は稱へり。ふくとも。貧乏に月分の分際あり。縣の金を調へ
 ぐ。る。別は秘めたり。と問を。出九郎の口由のへい。さればよ。
 今ところ、物うりせし。親世音の示現あり。身を捨て、浮世を
 め。と。偷し。あるふあり。と。おろし。浪速の旅客は、樹艶郎
 の親方。雞家。又四郎。といふ人。寺井あり。親族の家は、田ら。と。ふ。と
 野崎の親世音へ詣り。直は、故々。め。と。彼れ。の茶店。は。憩。る。所。
 親の爲。と。その身を。焦。ると。ある。と。バ。媒。妁。し。て。ある。と。べし。とい。と。信。ず。
 しく。誘。ふ。と。久。松。と。ほ。く。と。う。ち。び。と。世。は。幸。る。れ。婦。女。子。が。親。乃
 為。同胞。の。乃。或。は。自。の。淫。奔。ふ。り。と。憂。河。竹。の。漱。し。と。う。浅。は。
 男子と。生。ま。と。く。色。と。街。で。酒。は。侍。り。枕。と。め。縣。の。客。と。び。と。
 う。と。睡。ん。と。と。お。と。と。ど。も。親。世。音。の。示。現。も。あ。れ。ば。つ。が。
 志。と。と。え。ん。や。う。り。一旦。又。を。救。ひ。と。後。は。死。と。も。生。と。も。秘。め。た。
 と。深。念。し。と。ある。と。ど。も。う。ち。男。色。は。身を。焦。ると。い。ふ。絶。く
 願。し。と。ね。ど。も。世。俗。の。常。言。小。時。の。要。う。の。鼻。も。刺。し。と。い。ふ。ま。ん。ば。あ。ら。う。
 の。と。り。の。と。も。金。ふ。と。代。ぐ。の。媒。妁。し。と。ある。と。う。と。と。交。は。う。
 出。九。郎。の。為。裸。と。と。密。は。飲。び。ず。と。久。松。を。茶。店。は。お。と。め。て。又。
 四。郎。は。汲。川。の。が。従。事。と。い。ひ。う。と。彼。が。孝。行。の。一。五。十。を
 告。ぐ。賣。身。の。の。ぬ。う。ち。相。澤。は。又。四。郎。の。久。松。を。下。し。び。えて。搦。
 浅。樹。を。と。る。と。う。と。且。至。孝。を。感。激。し。と。一。銭。も。及。ぶ。と。年。

事三年を限り。身價三十金と定め。腰る墨斗の筆を並
出しく。一枚の證文をうん字め。是より出九郎と久松が印信を打
さす。身價を遍より。ある日浪華なる山迹家丹五兵衛が妻。阿
也女。操丸の在外をさる人爲ふ。大和河内の呉場を巡礼。野
崎の祝世音へ系詣し。賽は徒者が草鞋買人といひ程。おど
茶店に尻をうけ。久松が親の爲。身を賣る。を笑ひ。は
坐ふ感涙を拭ひぬ。かれ孝子は恵んふ。三十金も惜しむ。ど
と深く。さうは憐れむ。餘ある路費也。夫ふ告ぐ。男子
らん。のち。旋。と。然止つ。年來。操丸を。久松の。ど
と。ち。で。外。は。立別。日。浪。へ。夫。丹。五。兵
衛。と。は。殊。ホ。二。件。の。孝。子。の。物。が。う。す。ふ。衆。皆。ぞ。嘆。息。
る。少。年。を。將。々。バ。物。の。要。は。へ。り。の。丹。五。兵。衛。ハ
殊。更。ふ。と。惜。と。る。人。案。下。某。生。再。説。久。松。ハ。身。價。三。十。金。を
受。と。り。受。四。郎。の。身。價。を。笑。ひ。買。ひ。と。る。金。ハ。又。を。救。ひ。料
る。ん。バ。兩。三。日。が。行。方。の。暇。を。と。る。べ。い。その。う。り。圖。り。又。は
別。を。告。ぐ。と。い。ハ。セ。も。果。む。受。四。郎。改。を。う。り。俾。と。る。や
る。や。前。人。既。は。身。價。を。遍。よ。り。ハ。年。晦。由。放。ぐ。直。に。傳
達。へ。や。う。め。誘。ひ。と。い。そ。ぐ。出。九。郎。ち。い。と。便。り。と。泣。く。
久。松。は。い。や。う。親。方。の。宣。へ。不。理。な。れ。バ。その。金。を。と。れ。は。領。と。る。
小。代。り。久。作。を。救。ひ。出。し。歩。く。音。耗。と。る。と。い。ふ。と。い。ふ。
費。し。と。懇。切。が。う。い。ハ。賺。せ。と。久。松。を。う。り。ワ。リ。と。身。を。售
ハ。何。の。爲。と。恙。り。此。祝。の。身。を。見。て。去。う。ハ。か。あ。と。い。ハ。緯

と。市吉といふ口を。半は押く慌し、千拭とくく被り、何れ
とゆふ、脱去り。る。初は畑打果て立ぬ。農夫三人夕夜の隈
るは正直坊が仕え。とてくたれは駭き抱き起し。さすく
勤し。やうやう駐生。とて。東京死。う。と。散動。とて。獲く。親
音堂へ昇り。く。入。医師を招。近隣。告。湯茶を。め。と
と。詰。且。到。ア。い。急。死。と。成。る。當。下。然。る。里。人。ホ。
成。る。と。抱。と。飲。び。せ。え。と。久。松。が。牙。を。售。る。孝。行。出。九。郎。が
暴。悪。を。彼。ら。も。る。物。う。う。久。松。が。牙。價。三。十。金。を。野。草。摸
よ。奪。ひ。と。と。ん。バ。彼。親。子。の。面。を。親。ぐ。各。位。愚。僧。が。為。は。釋。の
趣。を。祈。く。と。と。の。里。人。ホ。れ。を。せ。く。ふ。久。松。が。至。孝。を。稱
嘖。且。出。九。郎。が。兇。惡。を。憎。く。村。長。は。告。ぐ。り。後。と。由。は。縣。守。よ
所。く。縣。守。由。久。松。が。純。孝。を。嘆。賞。し。遂。は。久。作。が。死。刑。と。省。く。
野。崎。の。郷。を。追。放。直。出。九。郎。を。禁。獄。と。と。俄。頃。は。捕。兵。と
向。ら。し。野。草。摸。と。い。ち。と。逃。去。ん。絶。く。所。在。ハ。志。と。う。り。
か。と。野。崎。の。久。作。ハ。必。ひ。の。外。は。放。さ。く。檻。の。獸。の。山。は。入。ぬ。奴。の。う。の
野。は。ぬ。と。死。と。く。由。久。松。が。牙。を。賣。る。孝。行。を。嘆。く。悲。しく。淺
ま。く。親。と。吸。ぐ。子。と。吸。ぐ。せ。は。憐。る。ゆ。え。あ。る。ふ。の。う。う。は。深。く。恨。み
幼。少。す。や。頃。より。捕。殿。の。彌。君。と。く。為。は。生。る。の。う。う。は。生。る。と。も。
さ。う。バ。親。又。と。の。め。ひ。ひ。金。技。を。恨。く。重。土。の。牆。の。際。に。肉。敷
郎。と。う。り。め。は。ふ。る。の。が。罪。る。と。と。の。八。千。通。斬。恨。は。野
崎。を。追。と。り。時。は。正。直。坊。が。音。堂。と。里。人。ホ。と。り。ふ。れ。を。郷。の。出。門。は
目。送。り。出。九。郎。は。久。松。が。身。價。を。奪。ひ。と。と。と。面。を。れ。と。と。賄。活。て。



松葉軒の
勝を差す
大ねを
提んとす

あやえ

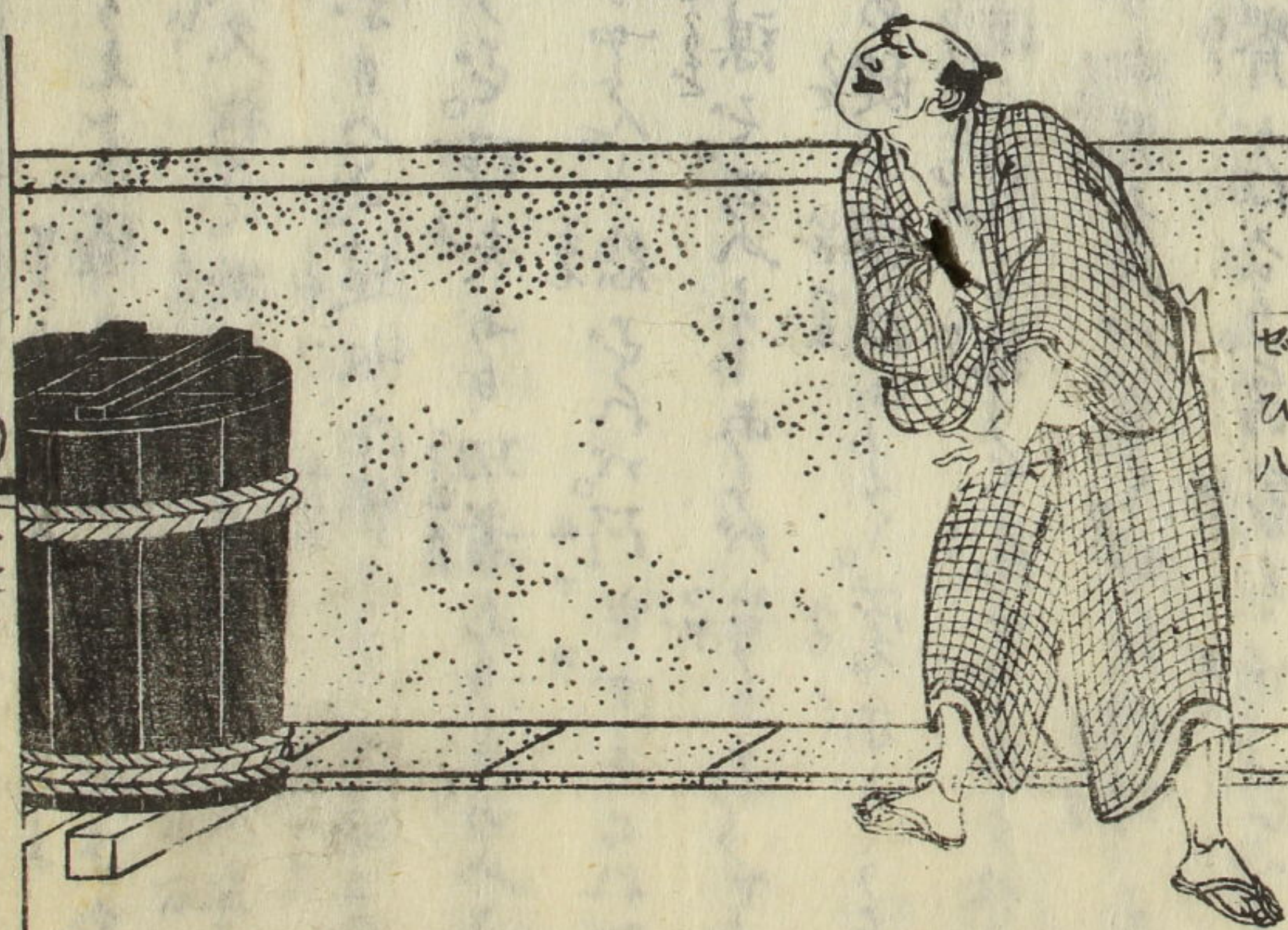
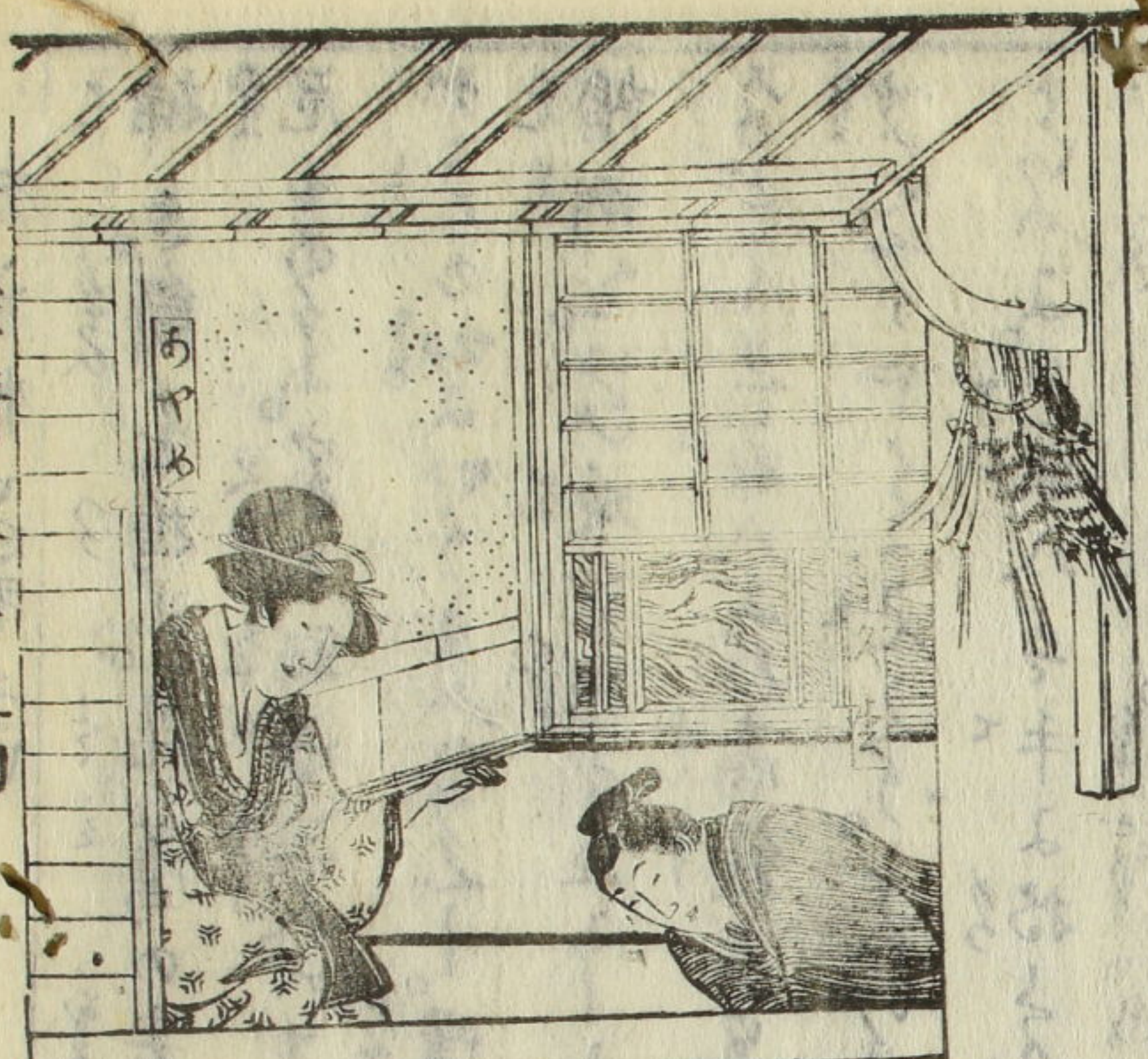
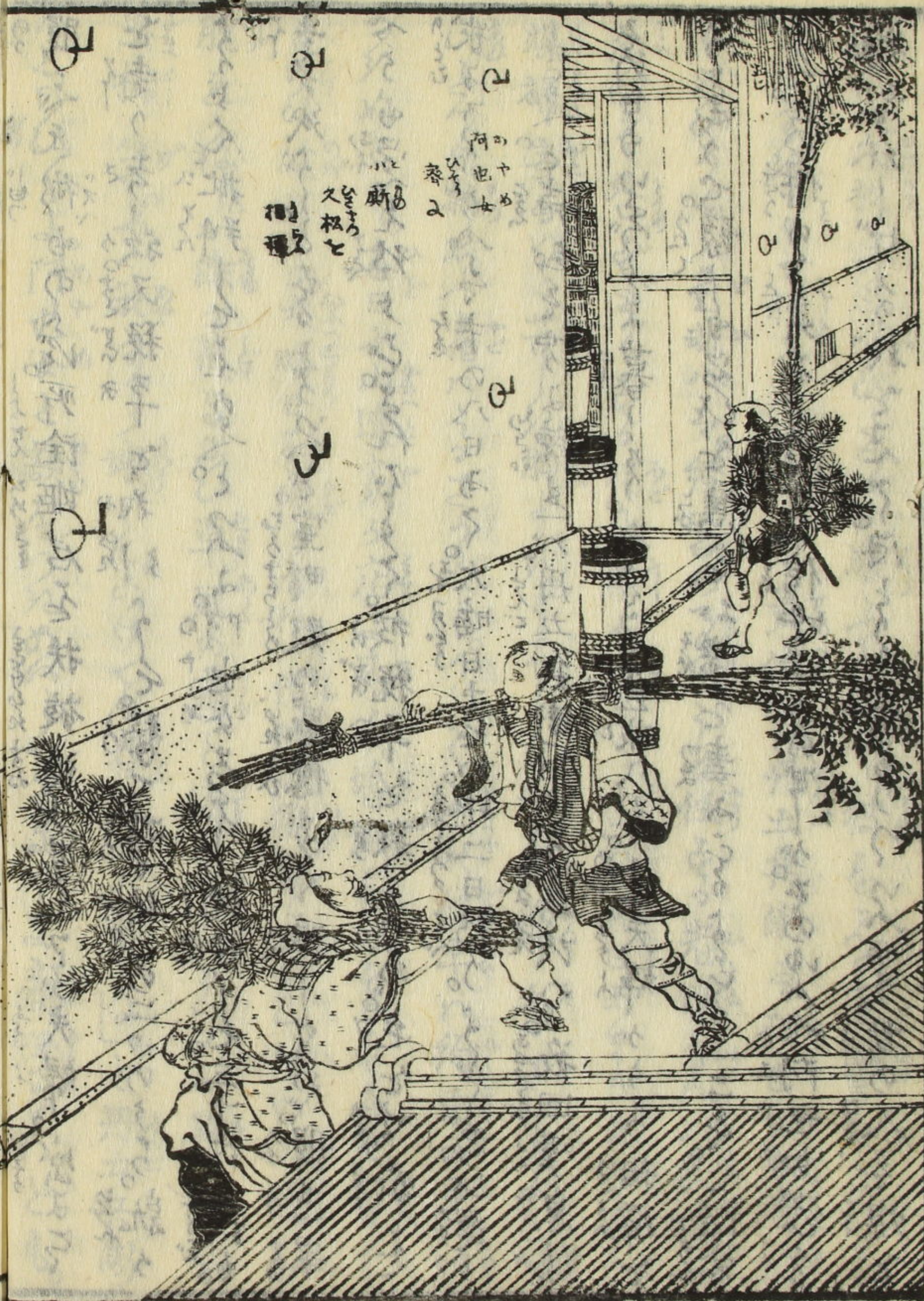
丹五郎

久保

少年が物ぐうとすく顔より親る。原本よりいひぬる四月野崎の
郷の茶店より。親の爲よと賣る。孝子よりいひぬる秋。同れて
ふく。親よりいひぬる。阿也女再く。その
茶店より賣る。少年。より併。副い。再び
る。環會。過世。怪。縁。と。律。審。物。久松。今。さ
ふ。顔。うち。救。め。く。の。女。見。ふ。涙。も。涙。く。く。その人。を。え。ま。ば。る。思。
る。め。の。は。い。み。す。て。長。き。袂。を。儒。く。と。う。を。丹。五。兵。衛。も。う。く。憐。く。
え。松。より。や。は。その。生活。の。卑。し。く。月。を。羞。て。命。を。損。え。と。い。ひ。究。め
る。か。緒。ひ。と。懸。り。人。の。羞。と。う。い。ひ。く。際。と。と。え。ん。ば。と。死。べ。く。ば。
は。か。く。は。曩。は。妻。を。物。ぐ。う。と。す。く。惜。め。の。う。し。は。今。不。意。の。枉。
死。を。禁。め。し。の。因。り。縁。り。う。ん。も。又。是。も。あ。る。身。も。ふ。女。見。ふ。涙。が
腎。が。ぬ。い。幼。少。より。往。方。と。い。ふ。既。は。親。の。年。を。経。え。ば。その。面。貌。の。う。
ら。ん。え。も。あ。る。は。ど。う。か。腎。も。は。か。等。く。十五。六。の。若。少。年。より。く。
け。め。と。い。ひ。さ。の。愚。癡。な。れ。ば。外。の。う。と。い。ふ。中。は。何。え。ど。う。ん。の。至。孝。清
潔。を。感。ず。の。の。ま。う。一。臂。の。力。を。竭。し。て。は。か。と。購。ひ。主。し。野。崎。へ。も。信
さ。く。又。又。作。と。や。ん。み。達。と。い。は。ば。う。い。ふ。ひ。と。や。る。ま。を。て。
推。致。も。枯。る。花。と。咲。き。又。あ。る。春。の。う。と。い。ふ。と。阿。也。女。の。後。と。も
信。ず。ふ。論。論。さ。ふ。久。松。も。手。合。し。伏。拜。と。う。再。生。の。高。恩。之。
活。地。獄。の。艱。苦。と。も。救。ひ。と。う。と。い。ふ。死。を。り。く。恩。は。答。付。と。ん。え。ん。
も。年。月。信。ト。ある。救。世。菩。薩。の。利。益。ふ。そ。と。意。う。感。涙。禁。め。の。く
さ。り。う。く。て。丹。五。兵。衛。も。阿。也。女。の。涙。り。う。と。も。久。松。を。お。く。尾。持。く

立ち上る。その夜ふくむ。難家より四郎許しあさる。久松が牙購のり
を相譚ふ。彼よりえく一々客と迎ふる。久松は少少なり。
是四郎由玉は瑕めをぬく。りてあさる。おらんば更は利欲を
あへど。舊の身價三十金をうけ。久松を進む。とく。いふ。丹五
兵衛飲び。即坐は金を通ふ。證文をさす。復し。かゝ家よ
あつて。緯の起る。久松は説く。とん。久松は鳥恩を謝す。言
詰る。足と。涙坐。小袖を洗ひつ。あ大人の為と。死を
り。仕人の心。と。あひ定め。う。信。う。挙動。丹五兵
衛夫婦。へ。瞬。と。彼久松。主官。是非。八。あ。ま。と。密
ふ。を。賞。え。う。年。僅。は。十六。あ。う。羽。集。の。う。う。ん。バ。小。廟。あ。め。り
使ひ。何。内。の。野。崎。へ。と。別。人。を。遣。う。久。作。が。安。否。と。同。う。ふ。あ。の
人。と。う。あ。つ。て。い。ふ。や。件。の。久。作。へ。その。子。の。至。孝。よ。う。う。命。を。助。け
ら。是。彼。地。を。追。放。せ。う。と。か。愛。子。の。往。方。を。索。ん。と。と。は。つ。洛。ろ
う。と。赴。死。つ。その。後。の。う。い。あ。る。り。の。う。と。と。野。草。揶。出。九。郎。と
や。ん。い。ふ。思。想。その。瞋。昏。は。埋伏。う。正直。方。を。打。仆。う。久。松。が。牙。價
を。奪。取。う。逐。電。せ。う。さ。る。ふ。う。う。久。松。が。送。書。も。又。の。久。作。あ。る。る
見。せ。と。子。を。失。ひ。う。親。の。歎。き。何。國。を。か。め。う。意。な。惑。み。あ。め。ん。
や。い。里。人。が。物。が。う。う。と。と。か。ち。も。う。う。昔。よ。け。と。バ。久。松。ハ。忽。地
を。失。ひ。う。只。潜。く。と。う。ち。泣。く。あ。い。夫。婦。由。それ。を。笑。て。い。と。本
ま。る。う。受。え。う。存。命。て。う。あ。る。う。バ。う。う。う。久。松。ハ。あ。め。ん。
ふ。い。屈。り。う。病。を。煩。ひ。う。い。い。論。を。程。う。是非。ハ。う。主。の。丹。五。兵
衛。夫。婦。が。久。松。を。う。子。の。う。愛。慈。う。は。妬。き。う。ふ。深。く。動。由

されば久松とて嘆びし。小腹痛くも。彼をえりて。雙言。歎ふ。坐く。
 さるる。然るも。仇る。罵つ。責使へ。丹五兵衛。由。阿也女。由。痛
 く。多ひ。つ。是非。八。経営。の。み。任。老。僕。ん。バ。只。憤。を
 忍び。く。咎。ど。く。も。税。又。年。も。暮。く。十二。月。廿。日。あ。ま。り。よ。う。つ。
 煤。掃。寄。由。と。苦。し。胸。く。ん。と。節。季。さ。む。ふ。と。
 門。も。物。も。宿。の。う。さ。う。べ。く。く。家。税。平。の。拘。束。の。日。近
 つ。ぬ。と。毎。日。ふ。山。迹。家。が。店。は。あ。く。婚。姻。を。い。か。ら。ふ。を。一。日。く
 と。い。ひ。延。び。大。晦。日。を。限。り。な。れ。借。銭。の。用。多。く。き。情。の。山。路。を
 脱。ま。る。な。お。條。が。茂。さ。ひ。草。且。の。霜。と。消。ゆ。せ。い。と。曇。り。し。
 玉。櫛。筭。あ。と。親。が。く。嫌。く。あ。け。て。も。春。は。あ。み。し。し。と。丹。五。兵。衛
 は。の。び。く。し。阿。也。女。と。額。を。つ。れ。あ。し。く。さ。や。ぐ。は。商。議。な。れ。ど。も。
 腹。を。杉。の。の。所。詮。姫。君。を。扶。掖。進。め。せ。り。と。夫。婦。密。に。と
 を。ま。り。き。軟。又。税。平。を。ね。り。て。替。て。捨。る。軟。の。二。ッ。の。う。ち。孰。う
 う。と。ん。批。判。し。て。え。り。と。い。ふ。阿。也。女。も。沈。吟。し。て。三十六。の。計。も
 ま。り。然。う。と。さ。る。と。う。い。ど。室。町。殿。の。威。徳。め。く。追。い。の。の。腹。も。果
 べ。り。も。受。え。得。ず。と。い。ふ。被。税。平。を。殺。し。の。の。毛。を。吹。疵。を
 求。る。と。い。ふ。な。ま。末。の。八。日。あ。く。大。晦。日。す。で。中。二。日。付。り。う。く。ひ。運。り
 と。と。声。を。き。又。練。止。バ。丹。五。兵。衛。の。う。ち。点。次。つ。数。回。嘆。息。し。
 その。日。由。い。づ。う。は。暮。し。り。あ。る。ふ。是非。八。主。夫。婦。か。ら。ち。相。譚。を
 よ。う。う。て。豫。め。し。を。焦。と。お。條。を。妻。に。さ。る。と。が。ふ。と。こ。深。念
 し。く。その。件。の。う。ち。め。り。信。や。ふ。の。せ。が。その。ゆ。へ。阿。也。女。ひ。と
 物。の。い。げ。の。税。を。え。り。何。と。ふ。居。り。つ。い。や。う。世。の。人。を。煤。を



名も厭ひひつゝとふの田へ引く水々々。澆へんばや醜郎の顔
似けるれを好むと鳴呼ととあひるが。阿也女ハヤウヤウと点改お
殊か密夫といふ人の。おめをへるけとども。や丹五共衛とあまじとるん。
固よそるといふが家の孔明と。賞受られと。是非ハハ喜ぶ眉尻が
てうち笑とる。町噂と謀めめ。ちく店前へ退出る。わじくば
是非ハハ謀めめ。と。おめ。次の日物と。出えと。土蔵の門口
すぐめく。裏の忽地阿也女が声して。何やん密語め。今一人を
久松と。久不審と。疑ひ細戸は耳。一五一十と竊
聞せり。

松添情史秋七草卷之四

照陽高見先生著

續皇朝戰畧篇

全五冊

此書正編、並三行ハ、久シク且ツ盛ナリ而シテ其近世ノ戦略ニ於テハ既ニ卷了リ紙數充コ
以テ記スルノ能ハス故ニ今般先生ニ乞ヒ新ニ続編ヲ發見スル所ニシテ其記載スルヤ文化
年間曾西亞人蝦夷地ニ入寇スルニ始マリ爾來大和長防又西東ノ戦ヒ王師東征尋テ佐
賀台灣ノ諸役及ヒ朝鮮江華島ノ捷ニ終リ其中大小諸戰皆將勇士奇勲偉切ヲ
洩スノ無シ即チ兵家必讀ノ書タルハ言ヲ俟タズ今日開明文化 由テ興ルニ所以スル者
マタ戦ヒニ出レハ人ノ尊卑ヲ問ハス有志者ハ此書ヲ閱セサル可ラス四方君子幸ニ購求ニテ
其奇書タルヲ知リ玉ヘト云フ

大坂書肆

文樂堂

前川源七郎謹白

右書各府縣下普々書林へ輸出有之ハ間御手寄ニテ御購求下サレ度ハ

